

滋賀県社会福祉学会 第43回大会 開催案内

自由研究発表・実践報告／学会シンポジウム(えにしフォーラム)

- 開催日 令和7年(2025年)2月21日(金)
9:30~16:20(9:00受付)
- 会場 滋賀県立長寿社会福祉センター
(草津市笠山七丁目8番138号)
- 定員 300名

大会テーマ

「地域でくらす」とは

～2025年問題にあらためて向き合う～

主催 滋賀県社会福祉学会

(事務局/滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会)

滋賀県社会福祉学会 第43回大会 開催案内

大会テーマ

「地域でくらす」とは

～2025年問題にあらためて向き合う～

1 趣 旨

滋賀県社会福祉学会は、昭和58年よりスタートし、県内の様々な分野の方々に参画いただきながら、滋賀ならではの社会福祉の実践や不断(普段)の研究を共有し学び続ける場として創り上げてきました。

滋賀ならではの福祉の価値を生み出してきた“滋賀の福祉人”の現場力を共有し、誰もが暮らしやすい未来の福祉実践の創造へつなげる場として開催します。

なお、第40回から、未来へとつながる現場での“実践”を、より多くの方に知っていただくことを目的として、「研究発表」に加え、「実践報告」の場も設けています。

2 主 催

滋賀県社会福祉学会(事務局:滋賀の縁創造実践センター 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会)

3 日 時

令和7年(2025年)2月21日(金) 9:30～16:20(9:00受付)

4 会 場

滋賀県立長寿社会福祉センター (滋賀県草津市笠山七丁目8番138号)

5 日 程

| | | | | | | |
|-----------|-----------|---------------------|----------------|-------------|-------------|----------------|
| 9:00～9:30 | 9:30～9:40 | 9:40～9:45 | 9:45～12:40 | 12:40～13:40 | 13:40～16:00 | 16:00～16:20 |
| 受 付 | 開会式 | オリエンテーション (各分科会) | 自由研究発表 実践報告 | 昼食休憩 | シンポジウム | 閉会式 (奨励賞発表) |

※分科会により終了時間が異なります。

6 参加対象

社会福祉関係者、医療・保健関係者、教育関係者、企業・団体関係者、ボランティア・市民活動関係者、地域福祉活動実践者、学生、その他福祉に関心のある方

7 参加費(資料冊子代)

一般参加者・発表参加者 1,000円
大学・短大・専門学校等学生、高校生以下 無 料

8 定員

300名

9 申込方法

事前申込制です。参加申込は、以下のいずれかの方法でお願いします。

- ①右記申込フォーム(二次元コード)よりお申込みください。
- ②滋賀県社協のホームページ(<http://www.shigashakyo.jp>)から申込書をダウンロードいただき、メールで「shiga-gakkai@shigashakyo.jp」あてに送付してください。
- ③別紙「一般参加申込書」に必要事項をご記入のうえ(FAX077-567-5160)に送信してください。



▲申込フォーム

10 参加申込締切

令和7年(2025年)2月13日(木)

※但し、定員(300名)に満たない場合は、締切日を越えても受け付けますので、お問い合わせください。

11 手話通訳等

<午前プログラム>

自由研究発表・実践報告の時間帯(分科会)において、手話通訳、要約筆記等をご希望の場合は、申込み時にその旨をご記入ください。

<午後プログラム>

学会シンポジウム(えにしフォーラム)については、手話通訳、要約筆記を配置いたします。

12 昼食

各自でご用意ください。

- この「プログラム」や当日配布する「学会要旨集」をご覧のうえ、各自が聞きたいと思う発表に自由に参加することができます。
- 分科会間の移動は自由です。ただし、発表中の移動はご遠慮ください。

開会式・オリエンテーション (9:30~9:45)

- 開会挨拶
- オリエンテーション

自由研究発表・実践報告 (9:45~12:40)

自由研究発表は、社会福祉関係者が日頃から行っている活動や他に先駆けて実施している取り組みなどを通して得た発見や成果を発表し、関係者みんなで学び・励まし合う貴重な場です。

この場で発表・検討されたことがお互いの活動意欲と実践を高め、滋賀の社会福祉向上につながればと思います。なお、本年度も、未来へとつながる現場での“実践”を、より多くの方に知っていただくことを目的として、実践のご報告もいただきます。

1) 発表・報告時間 1題につき、発表・報告15分 質疑応答10分 計25分

※各発表・報告の間には、インターバルを5分設けさせていただきます。

2) 自由研究発表・実践報告(分科会)分野及び題数 33題

| 分科会 | 分 野 | 題 数 |
|------|----------------|-----|
| 分科会1 | 高齢者福祉① | 5題 |
| 分科会2 | 高齢者福祉② | 5題 |
| 分科会3 | 障害児・者福祉、子ども・若者 | 6題 |
| 分科会4 | 地域福祉① | 6題 |
| 分科会5 | 包括ケア、地域福祉② | 6題 |
| 分科会6 | 困窮者支援、災害支援 | 5題 |

※分科会により終了時間が異なりますのでご注意ください。

分科会の詳細は5~6ページに掲載しています。

3) 滋賀県社会福祉学会 奨励賞

自由研究発表の中から「滋賀県社会福祉学会奨励賞」を選び、研究を奨励します。

また、奨励賞に選ばれた発表は、研究誌『滋賀社会福祉研究』（令和7年度発行予定）に研究レポートを掲載し、広く公表します。

4) 個人情報の保護

発表のなかには、実際の事例等を取り上げたものが多くあります。事例は発表者が自らの研究成果を披露し、討議することで、参加者と共に研鑽を図るために提供されるものです。発表者および参加者は、法令等に基づき、個人情報を保護してください。

学会シンポジウム(えにしフォーラム) (13:40~16:00)

大会テーマ 「地域でくらす」とは ~2025年問題にあらためて向き合う~

「2025年問題」と語られてきた当該年度を迎えました。

団塊の世代をはじめ国民の4分の1が75歳以上の後期高齢者となり、介護人材不足・認知症高齢者の増加等、私たちの暮らしを取り巻く社会課題が現実のものとして目の前に迫っています。

団塊ジュニア世代が高齢者となり、労働力不足がさらに深刻化する2040年に向けて、私たちはどのようなまちを描くのか。本学会シンポジウムでは、地域でくらすとはどのようなことであるのかを考え、2025年問題は「2025年から始まる問題」であることにあらためて向き合う契機とします。

基調講演

勝部 麗子氏 (社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 事務局長)

2004年度より始まった、大阪府コミュニティソーシャルワーカー(CSW)設立事業の一期生となる。2014年4月から放映のNHKドラマ10「サイレント・プア」のモデルとなり、同ドラマの監修を務めた。7月には「プロフェッショナル仕事の流儀」に出演。2016年厚生労働省地域力検討委員、2017年より厚生労働省生活困窮者自立支援及び生活保護部会委員として参加。2024年から厚生労働省地域共生社会在り方検討会議委員として参加。



トークセッション

勝部 麗子氏 (社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会 事務局長)

山田 容氏 (龍谷大学社会学部 現代福祉社会学科 教授)

1961年広島県生まれ。同志社大学文学部大学院社会福祉学専攻修了。民間企業、短大等を経て2006年より龍谷大学。

専門分野:ソーシャルワーク、児童虐待対応

滋賀県内の複数市町で要保護児童対策協議会に関わりつつ、当事者だけでなく支援者への支援について、アセスメントのあり方について検討している。



(進行) 谷口 郁美 (社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 副会長)

閉会式 (16:00~16:20)

- 奨励賞発表

滋賀県社会福祉学会 第43回大会 自由研究発表・実践報告 分科会一覽

| 分科会 (分野) | 第1分科会 (高齢者福祉①) | 第2分科会 (高齢者福祉②) | 第3分科会 (障害児・者福祉、 子ども・若者) | 第4分科会 (地域福祉①) | 第5分科会 (包括ケア、地域福祉②) | 第6分科会 (困窮者支援、災害支援) |
|---------------------------|--|---|--|---|---|---|
| 第1発表 (9:45～ 10:10) | <p>【研究発表】 (高齢者福祉) 相談支援専門職の成長促進要因に関する研究～南長浜地域包括支援センターの実践から～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 青祥会 南長浜地域包括支援センター</p> <p>北川 美由紀</p> | <p>【研究発表】 (高齢者福祉) ライフストーリー学の開催がゆいの里のケアを変えてきたまで～『聞き書き』の実践を通して～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 慈恵会の里</p> <p>岩本 千佳子</p> | <p>【研究発表】 (障害児・者福祉) ホームページを活用したチーム作り～アートディレクターと歩んだ7年の成果～</p> <p>【発表者】 一般社団法人 node</p> <p>高木 伸斉</p> | <p>【研究発表】 (地域福祉) デザイン思考で取り組む地域共生社会の推進</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会</p> <p>山岡 伸次</p> | <p>【研究発表】 (包括ケア) ピワックス活動から見えづらさを抱える人による高齢者の生活支援活動～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会</p> <p>福本 礼子</p> | <p>【研究発表】 (困窮者支援) 滋賀県におけるコロナ特例貸付利用者に対する福祉的支援に関する調査研究 コロナ禍でのくらしに関するアンケート調査</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会</p> <p>山田 孟志</p> |
| 第2発表 (10:15～ 10:40) | <p>【研究発表】 (高齢者福祉) 利用者と職員が満足できるケアを目指して～排泄ケアの取り組み～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 青祥会 坂田メデイケアセンター</p> <p>関 亜希</p> | <p>【研究発表】 (高齢者福祉) ハラズメントのない介護福祉施設であるために～ハラズメント対策研修とその考察～</p> <p>【発表者】 一般社団法人 滋賀県老人福祉施設協議会</p> <p>松田 のり子</p> | <p>【研究発表】 (障害児・者福祉) 本人の意思決定支援を大切にしながら職場とは～本人と支援者の協働としてのエンパワメントの形成に向けて～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 しがらき会 しがらき地域生活支援センター とうろむろ</p> <p>岩田 雅香</p> | <p>【研究発表】 (地域福祉) ながはま多文化交流サロン～外国人とともにつくる安心できる居場所(取組)について～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会</p> <p>藤田 みどり</p> | <p>【研究発表】 (包括ケア) 多職種連携での包括的な視点を可視化する～「家族支援シート」の開発、実践、一時評価からの考察～</p> <p>【発表者】 彦根市地域包括支援センター ずすばる</p> <p>澤田 敬子</p> | <p>【研究発表】 (災害支援) 防災福祉マップでつながる地域の安心～見える化で広がる見守りの輪</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 長浜市社会福祉協議会</p> <p>前田 智博</p> |
| 第3発表 (10:45～ 11:10) | <p>【研究発表】 (高齢者福祉) 五感による認知症緩和ケアへの介入～刺激介入による自律神経の変化について～</p> <p>【発表者】 フレイル認知症予防研究センター</p> <p>井阪 尚司</p> | <p>【研究発表】 (高齢者福祉) チームで根拠に基づいた業務改善を進めることの大切さ～介護現場における生産性向上の取り組み～</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 青祥会 介護老人保健施設 長浜メデイケアセンター</p> <p>中川 雅基</p> | <p>【研究発表】 (子ども・若者) 社会的養護における自立支援としてのハローワーク体験事業の可能性</p> <p>【発表者】 社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会</p> <p>栗野 友美佳</p> | <p>【研究発表】 (地域福祉) 子ども食堂を通じた地域づくりの内発的発展に関する一考察～ひのみんなの食堂 ネットワーク成立・展開過程を通して～</p> <p>【発表者】 日野町福祉保健課(地域共生推進担当)</p> <p>鎌田 宗純</p> | <p>【研究発表】 (包括ケア) 人、動物、地域に向き合う多機関連携・協働のありかたについて。こうが人福祉・動物福祉協働会議を手掛かりとして</p> <p>【発表者】 甲賀市地域共生社会推進課</p> <p>竜王 真紀</p> | <p>【実践報告】 (災害支援) 災害時に埋もれたニーズを見逃さない!地域に根ざした支援体制の構築と実践～七尾市災害ボランティアセンターの事例から考える～</p> <p>【報告者】 社会福祉法人 近江八幡市社会福祉協議会</p> <p>八木 明恵</p> |

| | | | | | | |
|----------------------------------|--|--|--|---|---|---|
| 第4発表 (11:15～ 11:40) | 【実践報告】 (高齢者福祉) 高齢者のフレイル基準・欠食調査と地域配食課題 | 【実践報告】 (高齢者福祉) 住民が自ら活躍する健康な地域づくりを支えて～六荘地区における地域包括ケアシステム構築へ向けた取組～ | 【実践報告】 (障害児・者福祉) 抱え上げない介護で笑顔の獲得 | 【実践報告】 (地域福祉) 人と人との縁を結ぶ『お結びカフェ』～認知症当事者も介護者も地域の人も男性もみんなが心待ちにするカフェづくり～ | 【実践報告】 (地域福祉) フレイル予防教室～社会と命延伸を～ | 【実践報告】 (災害支援) 県内初の活動であるDWATに参加して |
| | 【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の学習 橋本 治美 | 【報告者】 社会福祉法人 青祥会 南長浜地域包括支援センター 池田 美和子 | 【報告者】 社会福祉法人 若竹会 山寺作業所 古川 茂 | 【報告者】 守山市南部地区地域包括支援センター 心山 久美子 | 【報告者】 社会福祉法人 近江ちいろば会 ぼだいし訪問看護ステーション 吉澤 賢一 | 【報告者】 社会福祉法人 慈照会 前田 岳史 |
| | 【実践報告】 (高齢者福祉) 利用者ど地域が繋がる活動を目指して | 【実践報告】 (高齢者福祉) 抱え上げない介護～スマートジョブへの実践 | 【実践報告】 (子ども・若者) 援助者(保育士)の役割～流し絵の取り組み～ | 【実践報告】 (地域福祉) 社会教育活動の手法による地域福祉活動の拡がり～9年目のコミュニケーションチャート(日々変遷する地域情報)の活用～ | 【実践報告】 (地域福祉) タブレット導入による民生委員・児童委員活動の環境改善と地域還元への実践～単位民児協におけるICT活用(タブレット端末導入)の実践と経過報告～ | 【実践報告】 (災害支援) 滋賀県の災害時要配慮者対策について |
| 第5発表 (11:45～ 12:10) | 【報告者】 社会福祉法人 米原市社会福祉協議会 デイサービスセンター 行々家のとせ 山根 佑介 | 【報告者】 社会福祉法人 野洲慈恵会 特別養護老人ホームあやめの里 中島 裕介 | 【報告者】 特定非営利活動法人 地域で創る土曜日夢の学習 摺本 圭治 | 【報告者】 守山市小津学区民生委員児童委員協議会 大谷 加代子 | 【報告者】 滋賀県知事公室防災危機管理局 細川 優衣 | |
| | 【実践報告】 (子ども・若者) 全力で笑えるようになりました～自分のことが好きになる～ | 【実践報告】 (地域福祉) 「病院から地域へ」の講座から「地域から地域へ」の講座づくりに挑戦～市民落語家とのコラボレーション講座～ | 【実践報告】 (地域福祉) 「病院から地域へ」の講座から「地域から地域へ」の講座づくりに挑戦～市民落語家とのコラボレーション講座～ | 【実践報告】 (包括ケア) 『身近な法人連携会議』でできること～「共に生きる」を実現するために～ | 【実践報告】 (包括ケア) 『身近な法人連携会議』でできること～「共に生きる」を実現するために～ | |
| | 【報告者】 NPO法人 Since 深田 真優 | 【報告者】 医療法人 幸生会 琵琶湖中央リハビリテーション病院 上嶋 美由紀 | 【報告者】 社会福祉法人 さわらび福祉会 中野 純司 | 【報告者】 社会福祉法人 さわらび福祉会 中野 純司 | 【報告者】 社会福祉法人 さわらび福祉会 中野 純司 | |
| 第6発表 (12:15～ 12:40) | | | | | | |

令和6年度

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり）

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

| 保険金の種類 | | プラン | 基本プラン | 天災・地震補償プラン | |
|--------|----------------------|--------|--------------|------------|--|
| ケガの補償 | 死亡保険金 | | 1,040万円 | | |
| | 後遺障害保険金 | | 1,040万円(限度額) | | |
| | 入院保険金日額 | | 6,500円 | | |
| | 手術 保険金 | 入院中の手術 | | 65,000円 | |
| | | 外来の手術 | | 32,500円 | |
| | 通院保険金日額 | | 4,000円 | | |
| | 特定感染症 | | 補償開始日から補償* | | |
| の賠償責任 | 地震・噴火・津波による死傷 | | × | ○ | |
| | 賠償責任保険金 (対人・対物共通) | | 5億円(限度額) | | |
| 年間保険料 | | | 350円 | 500円 | |

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの交替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉

損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店

株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

〈SJ23-11315より抜粋〉

滋賀県社会福祉学会事務局

滋賀の縁創造実践センター

滋賀県社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係

〒525-0072 草津市笠山七丁目8番138号 県立長寿社会福祉センター内

電話: 077-567-3924 FAX: 077-567-5160

e-mail: shiga-gakkai@shigashakyo.jp